

日本人戦没者慰霊祭の挙行に当たり、フィリピン在留邦人を代表し、全ての戦没者の御霊に、謹んで哀悼の意を表します。

ここフィリピンでは、先の大戦において、日本軍将兵に、二万人の民間人の方々を合わせて、実に五十万人を超える日本人が尊い命を落とされました。

フィリピン各地の戦場で、或いは飢えに、或いは病いに苦しみつつ、祖国日本、故郷、家族を想いながら戦禍に散った方々は、いま私たちが見るこの南国の空と同じ美しい空を、山々を、草花を見ながら、無念の死を遂げられました。

またこの戦禍により、日本人犠牲者に倍する、実に百十万人以上のフィリピンの方々が犠牲になりました。

このことに思いを馳せる時、あらためて痛惜の念が胸に迫ります。

先の大戦が終わり、七十六年の歳月が流れました。

昭和はすでに遠く、平成も終わりを近づけ、いまは令和の時代となっています。

戦後、私たち日本人の多くは、幸いにも平和を享受しております。

戦時下の恩讐を越えたフィリピンの方々の許しの心、我々の先人達のたゆまざる努力により、日比両国は活発な交流を背景に、緊密な関係を築いています。

しかしながら、このフィリピンにおいて、かつてこれほどに多くの尊い人々の血が流れ、幾多の犠牲が払われました。

このことを今また深く心に刻み、全ての戦没者の方々への哀惜の念をあらたに、平和に思いを巡らし、後に続く世代に永遠に語り継ぎ、日比両国の一層の相互理解と友好の礎とすることをここに誓い、追悼の言葉といたします。

戦没者の皆様、どうぞ安らかにお休みください。

令和三年八月十五日

マニラ日本人会会長 細谷 明宏